

# 水道料金 2.9%の値上げは本当に必要だったのか!?

## 3、4年度の水道事業会計決算で検証する

4年4月から水道料金が2・9%値上げになりました。村上かずしげ議員は、3年度、4年度の決算を調べ、水道料金改定の問題点を指摘しました。

### 料金改定の根拠・財政収支計画

料金改定時に、市は「このまま続けると水道事業が赤字になる。値上げをしないと運営できない。値上げをすれば収支はこういう具合になる」という財政収支計画を示しました。この財政収支計画通り進んでいけば、市の言い分は正しかったことになりましたが、もしそこに大きな食い違いが生まれていたら、値上げの根拠が揺らぐことになります。そのポイントとなるのが、値上げ前後の3年度、4年度の決算値との比較です。それが左の表です。

単位 百万円	3年度		収支計画との差	4年度		収支計画との差
	財政収支計画	決算		財政収支計画	決算	
水道事業収益	4,816	4,890	74	4,873	5,004	131
給水収益	3,928	4,010	82	4,018	3,551	▲467
その他の収益	888	880	▲8	855	1,453	598
水道事業費用	4,382	4,157	▲225	4,424	4,248	▲176
純損益	434	733	299	449	757	308
資本的収入	3,054	2,906	▲148	3,470	3,150	▲320
資本的支出	6,009	5,715	▲294	6,530	6,018	▲512
資本的収支不足額	▲2,955	▲2,809	146	▲3,060	▲2,868	192
損益勘定留保資金	1,871	1,866	▲5	1,989	1,904	▲85
引当金	46	▲5	▲51	0	▲40	▲40
資本的収支調整額	304	280	▲24	308	290	▲18
収益的支出の財源に充てる企業債	0	0	0	0	0	0
単年度収支過不足額	▲300	65	365	▲314	43	357
資金剰余金・不足額	2,162	2,527	365	1,848	2,570	722
退職引当金	547	496	▲51	543	456	▲87
資産維持費相当額積立金	440	440	0	440	440	0
実質的な資金剰余金・不足額	1,175	1,591	416	865	1,674	809

### 2年間だけで8億円収支が上振れ

運営の黒字、赤字を計る収益的収支と資産と負債を計る資本的収支の二つがあります。トータルの一年間の黒字・赤字が「単年度収支過不足額」です。

退職引当金や老朽管の更新に必要な積立金も必要ですから、一番下段の「実質的な資金剰余額」が累積黒字を表しています。



財政収支計画では、「3年度は3億円の赤字。4年度は値上げするがそれでも3億14百万円の赤字。そのため累積黒字は8億65百万円まで減る」と試算していたのに、実際は「値上げ前の3年度も、4年度も黒字。累積黒字は減るところか16億74百万円を超える」という結果に。実際の収支が試算を8億円も上回ったという驚くべき数字です。決算と符合する財政収支計画がつけられていけば、値上げを圧縮することも、値上げを遅らせることもできたはずですが。

### かい離は想定外か

市は「業務用水道使用量のコロナの影響からの回復が予想以上に早かった。予期せぬ欠員も生まれた結果だ」と言いますが、財政収支計画が決算とかい離する可能性が高いことは、当時の特別委員会でも村上議員が指摘していたことでした。期せずして、村上議員の心配した通りに事態は進んだのです。